

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 今町 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国・県と比較しても学習に対する関心が低い傾向にあるが、必要性は感じている。解答の状況を見ると、言葉の知識や使い方の習得に大きな課題がある。
	よくできた問題	文章と図表を結び付け、必要な情報を読み取る問題。
	努力が必要な問題	漢字を正しく使う問題。その他、自分の考えを述べる等、記述形式の問題。
算数	全体的な傾向や特徴など	全国・県と比較しても学習に対する関心が低く、苦手意識を持っている児童が多い。解答の状況を見ると、解法の知識や適切な使い方の習得に大きな課題がある。
	よくできた問題	目盛りの数値に着目して、正確に数量をとらえる問題。
	努力が必要な問題	角の大きさや図形の面積など公式を用いて計算する問題。考え方や理由を自分の言葉で説明する問題。
理科	全体的な傾向や特徴など	算数科や国語科と比較して学習に対する関心が高く、必要性を感じている児童が全国・県と比較して高い。解答の状況を見ると、用語の知識や適切な使い方の習得に大きな課題がある。
	よくできた問題	問題に対するまとめを導き出す実験が適切であるか判断する問題。
	努力が必要な問題	「エネルギー」や「生命」に関する知識を問う問題。考え方や理由を自分の言葉で説明する問題。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概

質問調査の結果分析	
○学校での学習活動について	<p>タブレット端末の活用について、「楽しみながら学習を進められていますか」という質問に対して肯定的な回答をした児童の割合は7割を超え、「インターネットを使って情報を収集することができますか」や「ICT機器を使って情報を整理することができますか」などの質問に対して肯定的な回答をしている児童は全国・県と比較して多いことから、情報収集のツールとしての活用には慣れ親しんでいることがうかがえる。反面、「ICT機器を使ってプレゼンテーションを作成できますか」「ICT機器を使って文章を作成できますか」「ICT機器を使って友達と意見の伝達・共有することはできていますか」など、情報収集以外の活用になると否定的な回答が多くなることが分かった。今後はICT機器を使った意見交換場の設定や発表原稿の作成など、日々の学習の中でICT機器を活用する授業展開ができるように学校全体として努めたい。</p>
○家庭での生活習慣について	<p>「学校の授業以外で1日当たりどれくらい勉強しますか」という質問に対して半数以上が「30分未満」「全くしない」と回答している。また、「学校の授業以外でどれくらいICT機器を勉強のために使っていますか」という質問に対しては、4割の児童が「全く活用していない」と回答しており、家庭学習の有用性やICT機器の勉強に対する効果的な使い方を児童のみならず保護者に対しても情報提供・啓発活動を行っていく。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語科において、漢字や慣用句等、語彙をはじめとした基礎的な知識の定着を目指す。算数科においては、基礎的な計算力や公式などの知識定着を図る。理科においては、用語などの基礎的な知識定着を図る。また、どの教科についても自分の考えをICT機器を活用して共有・伝達できる場を設け、児童の主體的な学びを大切に学習展開を仕組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

質問調査の内容に加え、家庭での読書時間が県・全国を大きく下回っている。家庭学習時間の改善という点では、内容を精査することで質・量共に最適な宿題のあり方について検討する。また、読書の大切さを家庭に啓発し、校内での読書力向上の取組と合わせて児童が読書に慣れ親しむ素地を作ることができるよう努める。